県建設業協会出水支部パト

新たな気持ちで無災害を

県建設業協会出水支部（桑木行喜支部長）は20日、14年度第2回県下一斉安全パトロールを実施し、昨年末に発生した死亡事故を教訓に、新たな気持ちで安全管理を強化し、年度末の繁忙期ならびに新年度も無災害でと呼び掛けた。

同日は、支部会員および現場代理人、県本部の三窪球利労務委員（日置支部）や磯端誠川内労働基準監督署監督係長、出水土木事務所や出水市など発注機関の担当者が建設会館に集まった。

出発式では、桑木支部長が「川内労基署や発注官庁各位の参加をいただき、今年度第2回目の安全パトです。厳しく診断して悪い所は遠慮なく指摘ください」と挨拶。続いて、渋谷俊彦出水市長も「年度末が迫り工期を考えて安全管理がおろそかにならないよう、基本的な事をしっかり守って最後まで安全第一でお願いします」と注意を促した。

参加者は6台のマイクロバスに分乗し、1班（土木）阿久根・出水市、2班（同）東町・出水市、3班（建築）阿久根・出水市の各2現場を巡回、重点項目ほか点検表に基づき診断。このうち1班は、阿久根市発注の14年度脇本漁港地域水産物供給基盤整備（阿久根建設㈱）と出水土木発注の特殊改良1種（田原2工区）（丸久㈱建設㈱）の2現場を診断し、現場代理人に指摘事項の改善を要望すると共に、最後まで安全最優先で作業して無災害で、と呼び掛けた。

午後からの反省会では、桑木支部長が「不幸にも昨年末、会員現場で死亡事故が発生した。これを教訓に本日のパトを契機として、良いところは取り入れて改善し、新たな気持ちで無災害への取り組みをお願いする」と挨拶。診断意見発表や講評が行われ、どの現場も整理整頓、安全管理とも行き届き概ね良好と診断されたが「安全通路の整備」「進入道路の農道は補修し、地域住民への気配りを」「安全看板の増設」など、より一層の安全管理強化で災害の未然防止が要望された。

現場代理人の説明を受けるパト一行
＝出水市の現場で

テープカットで全線開通を祝う関係者
＝東串良町の現地で

肝属グリーンロード全線開通式

地域農業の産業基盤に

肝属グリーンロードの全線開通式が20日、肝属地区広域営農団地農道整備事業推進協議会（松田利三次会長・東串良町長）の主催で、肝属郡東串良町新川西で盛大に開かれた。肝属郡東串良町池之原（国道220号）を起点に佐多町馬込（県道馬込浜尻線）までの総延長56キロ（農林水産省区間・36キロ）が開通したことで地域農業の産業基盤は20分程度それぞれ短縮される。大型車両の進入が可能になり流通経費の軽減、生活道路の利便性が期待される。

式には、同協議会9町の代表者、国土交通省、県、地元選出の国・県議員ら約40人が出席して、記念碑除幕式を行った後関係者がテープカット、車両パレードで開通を祝った。その後、祝賀会が東串良町池之原で開かれ250人が参加して行われ、昭和54年に着工した肝属グリーンロードの完成を祝った。

同農道は、広域営農団地農道として昭和54年に着工、大隅半島唯一の基幹農道として、将来の地域農業開発への重要な産業基盤道路として建設された。なお、1期工事は、佐多町から大根占町（昭和54年～平成9年）、2期工事は、大根占町から東串良町（昭和56年～平成14年）総事業費は121億7600万円。

県建設業協会栗野支部パト

安全意識 現場の隅々まで浸透

県建設業協会栗野支部（佐々良忠満支部長）は20日、14年度第2回県下一斉安全パトロールを実施し、会員及び本部役員、加治木労働基準監督署、発注機関、横川警察署等から約70人が出席して、会員施工現場を点検した。

栗野建設会館に集合した参加者を前に、出来健二郎労務委員長が重点項目や概要を説明。2班に分かれた参加者は、バス3台に分乗して、目的地へと出発した。

1班は近藤泰史労務委員を班長に吉松町、栗野町、横川町の3町で、また2班は竹内慧労務委員を班長に牧園町で、それぞれ墜落・転落、土砂崩壊防止用の措置、重機の有資格者選任、安全施工サイクル運動の実施、安全日誌記録、安全旗掲揚及び救急体制等、厳しくチェックした。

反省会では、佐々良会長が「パトの結果、全社において安全意識が現場の隅々まで浸透していると感じた。厳しい経営環境だからこそ、安全には特に留意しなければならない。年度末に向かい、さらに気を引き締めて業務を遂行してほしい」と挨拶し、各診断員から診断所見が発表された。

その結果、下請けが持ち込んだ重機の点検、作業場所と通路とのつながり部分の点検、トイレの目隠し等で更なる現場のイメージアップを、などの意見があったが、各社とも安全に関する創意工夫が見られ、事務所の整理整頓も申し分なく、この努力を継続して無事故で年度末を迎えてほしいと高く評価された。

書類や施工体系も厳しくチェックしたパトロール
＝牧園町の現地で

技能グランプリ激励会

26日に県庁で

第22回技能グランプリ（2月28－3月3日、千葉市幕張メッセ外）に参加する本県選手団激励会は、26日午前10時から鹿児島市の県庁で開催する。

選手団は、森山清隆県職業能力開発協会副会長を団長に、畳製作の田中広海さん（田中畳店）、建築大工の池田晃啓さん（㈲坂口サン建築）、フラワー装飾の福永敏（さんフローリストふたごのき）の3選手。

情報サービス産業 IT施策説明会

24日に鹿児島市で

県内の情報サービス産業関連企業を対象した「情報サービス産業IT施策説明会」は、24日午後2時から鹿児島市のソフトプラザかごしまで開催する。

国分電機大和工場に離島振興特別賞

国土交通省の14年度地域活性化貢献表彰の離島振興特別賞に、大島郡大和村の国分電機㈱大和工場が選ばれた。表彰式は3月5日に行われる。

県民交流センターにクスノキ寄贈

26日に植樹式

かごしまみどりの基金

かごしま県民交流センターの完成をして、㈶かごしまみどりの基金は県木のクスノキを寄贈、26日午後2時から、鹿児島市山下町の現地で植樹式を行う。

セラミックサー燻焼実験

ペットボトル 安全にリサイクル

向栄企画設計

向栄企画設計㈱（向吉嘉次郎社長、本社・福岡県春日市）は20日、鹿児島市の中央卸売市場で「セラミックサー燻焼実験」を実施。実際に見学者らが持参した廃品を投入して資源循環型・リサイクルセラミック「リセラ」が生成されるまでの公開実験を行い、見学に訪れた関係官庁をはじめ関連業者らは終始驚きの表情を見せていた。

当日は、初めに㈲ケイプラス（岐阜県、発売元）の倉岡正次社長が「このシステムは、電気や重油は一切使用せず、強力磁石により押し出される電子が磁場内を通過するときに、マイクロ波となって物質の水分子にあたり、発熱させます。装置内は一酸化炭素と結合して原料を与えることにより、押し出された電子が燃焼室内でマイナスイオンを出して、原料を燃焼させる。ほぼ同時に燃焼ガスを吸引し、ガスを冷却する。ガスは、冷却されると、ガスの中の水蒸気は、ガスの中の水蒸気は、ガスの中の水蒸気は